

耳石解析による2021年生まれアユのふ化日組成

佐々木賀治

1. 目的

アユのふ化時期の早晩は、アユのその後の成長および漁獲状況に関係することが知られている。そこで今後の漁況予報の参考とする目的で、ヒウオ生息状況調査で採捕した2021年生まれのアユのふ化日組成図を作成し、ふ化時期の特徴の把握を試みた。

2. 方法

耳石解析に用いたヒウオは、9月21日から12月15日にかけて船木崎から当场にかけての4水域(図1の実線部分)で、ヒウオ生息状況調査と同様の手法で採捕した。曳網水深は各水域8mと中央付近の2水域では水深8mに加え、水深16mでも実施した。採捕したヒウオのうち1地点50尾以上採捕された地点は50尾を上限に、全1669個体から耳石を摘出し、耳石解析装置(ARP/W+RI:ラトックシステムエンジニアリング社製)を用いて日輪数(図2)を計数することでふ化日を求めた。50尾以

上採捕された地点はそのふ化日を全採捕尾数に補正し、ふ化日組成図を作成した。

3. 結果

ヒウオ曳調査では8月23日から11月27日にふ化したヒウオが採捕された。2021年生まれのアユのふ化日のピークは9月中旬から10月上旬となり、とくに9月20日から30日にかけてふ化した個体が多かった。また、10月下旬以降にふ化した個体は少なかった(図3)。

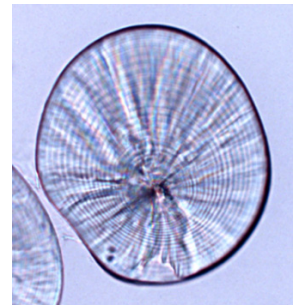


図1 サンプルング水域図

図2 アユ耳石頭顕鏡写真

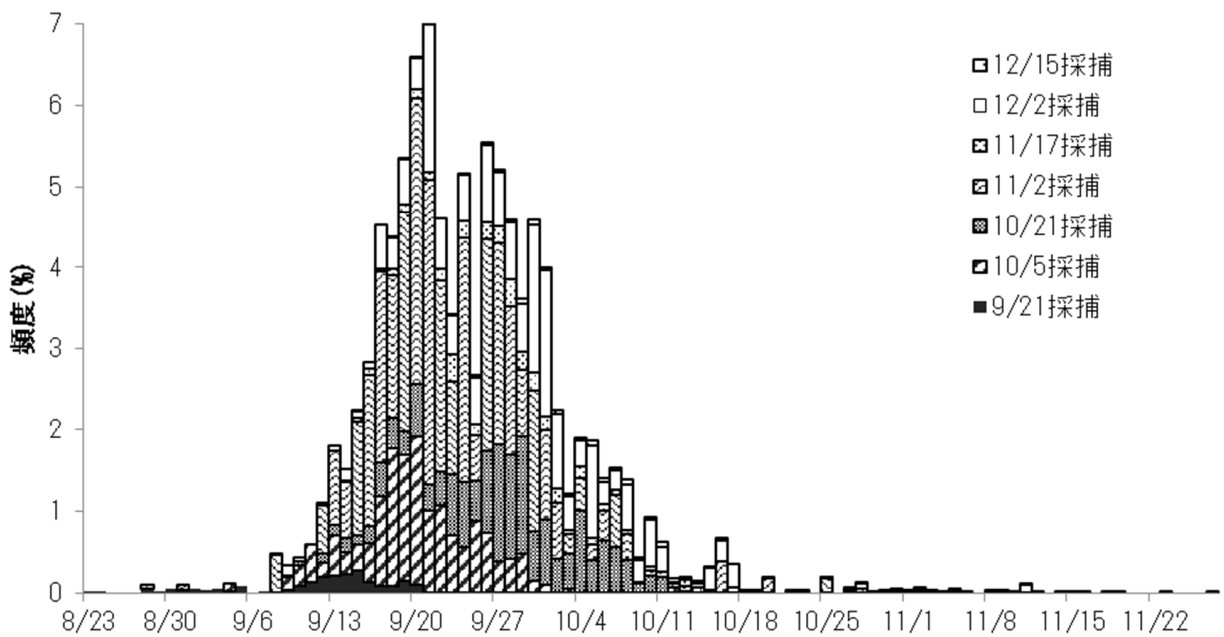


図3 2021年生まれアユのふ化日組成図